09 須崎遠見番所跡（すざきとおみばんしょあと）

江戸時代のはじめに須崎に御番所が置かれた頃、須崎の須砂里崎にあり海を行きかう船舶の監視などのために須砂里崎に遠見番所が設けられたといわれています。残念ながら碑などは残されておりませんが、このことは地域で脈々と語り継がれています。地域の歴史が薄れ行く中で、価値の高い存在として下田まち遺産に認定させてもらいました。

左写真　現在の須崎遠見番所跡より下田港を望む。
右写真　現在の須崎遠見番所跡にはその形跡はない。

10 須崎御台場跡（すざきおだいばあと）

アヘン戦争での清国の敗北を受けて幕府は海防強化に乗り出しました。これまで何度か中止されてきた御台場をついに須崎に建設しました。大筒も配備され、さらに２隻の艦船が配備されたという記録が残されています。現在は、その雄姿を見ることができませんが、地域の重要な記憶として語り継がれています。

左写真　須崎御台場跡からの下田湾の現在の眺め。
右写真　大正九年に建てられた石碑がひっそりと眠っている。

11 天草ポン作り（てんぐさ）

“ポン”ってなんだろう？というのが多くの感想だと思います。“ポン”とは天草を樽に入れ踏み固めた俵状の塊です（写真点線内）。昔はこのポンを作るために、一つの樽に女性が向かい合って入り天草を踏み固めたため、「樽ダンス」と呼ばれました。この須崎では長年続く特色ある光景となっています。

左写真　樽ダンス風景。
右写真　踏み固められた天草は束にされて積み上げられる。

12 若山牧水歌碑（わかやまぼくすいかひ）

自然主義・浪漫主義で旅と酒を愛した歌人・若山牧水は、大正２年に神子元島の灯台守で大学時代の友人である古賀安治を訪ね島に渡り、１週間滞在しています。その時に詠まれた歌が歌集「秋風」に収められています。若山牧水の功績を称え神子元島が良く見える恵比須島に歌碑が立てられたものです。

左写真　若山牧水の歌碑には「友が守る灯台はあはれわだなかの蟹めく岩に白く立ち居り」と記されています。酒と旅を愛した歌人・若山牧水が神子元島で灯台守をしている友人を訪ねた時の歌です。文字は長男の若山旅人氏によるものです。
右写真　歌碑裏面には歌が詠まれた背景が書いてあります。

こちらの下田まち遺産については、下田市役所ホームページ内にて紹介しております。 下田まち遺産 検索

※こちらの下田まち遺産の位置については、本誌３ページもご参照ください。

13 民宿発祥地石碑（みんしゅくはっしょうちせきひ）

海水浴や磯遊びや海釣りの良い漁場、さらには教育旅行の舞台として知られる須崎地区は、昭和 36 年に伊豆急行線が開通されると、いち早く民宿を立ち上げたとされています。心と心のふれあいを大切にしながらお客様を迎えている須崎地区は、伊豆の民宿発祥の地と言われています。

左写真　須崎漁民会館前に建つ石碑。
右写真　石碑の裏側には「昭和 36 年伊豆急行が開通し、須崎ではそれに合わせて民宿を立ち上げた。伊豆の民宿はここから始まった」と記されています。

14 須崎御番所跡（すざきごばんしょあと）

徳川家康の関東打入りや江戸城入場によって、下田は軍事上無視できない港となりました。江戸幕府は開かれたものの、大坂方の豊臣勢は未だ力を持ち緊張が高まる中、今村伝四郎正長が警備を任命されたことに始まり、正長の父・重長が初代下田奉行に任命され、元和２年（1616）に須崎に御番所（海の関所）を建設しました。

左写真　道路から路地に入ったところに御番所跡を記す石碑が建つ。
右写真　かすかに「御番所跡」の文字が見える。

15 須崎津島神社例大祭（すざきつしまじんじゃれいたいさい）

毎年旧暦の６月 15 日に開催される須崎津島神社例大祭の歴史は長く 280 年以上続く由緒ある祭りで、本祭りには道具をぶつけ合いながら街中をねり歩きます。クライマックスには道具も神輿も海の中へ。海の中でも道具のぶつかる音が響き渡ります。勇猛果敢な男たちが見せるこの祭りは、「荒祭り」として有名な祭りです。

左写真　須崎の住民一丸で取り組む祭り風景。
右写真　祭りのクライマックスには祭衆が道具と神輿を担ぎながら、そのまま海に入っていく。

16 灯明場跡（とうみょうばあと）

灯明場とは江戸時代の灯台のことです。もちろんで現代のように電気ではなく、夜通し火を燃やし続けました。当時の下田は江戸～大坂間の風待ち湊として重要な拠点であり、この灯明場は須崎歩道上にあり、須崎港に入る船の目印のために設置されたといわれています。

左写真　現在、灯明場の形跡はない。
右写真　須崎遊歩道入口（写真●印）にある灯明場の説明したプレート看板。

ご不明な点、ご質問等ありましたらご連絡下さい。問い合わせ先：下田市建設課 TEL.0558-22-2219